

## 南足柄市内の地震の石碑 (その2)

神奈川県温泉地学研究所 平野富雄、八巻和幸

南足柄市内に建てられた地震の記念碑を引き続き紹介する。前回紹介した「川入堰碑」から矢倉沢往還を関本方面に駐在所バス停まで引き返すと、そこが足柄古道の登り口である。舗装されたこの古道を30mほど歩くと、高台の正面に弘西寺堰碑が建てられ、かたわらには「古代 足柄道」と書いた道標がたっている。これが平安時代に更級日記を書いた菅原孝標女（すがわらたかすえのむすめ）が、箱根越えを「おそろしげ」に歩いた道で、道標を左に曲がると足柄神社である。

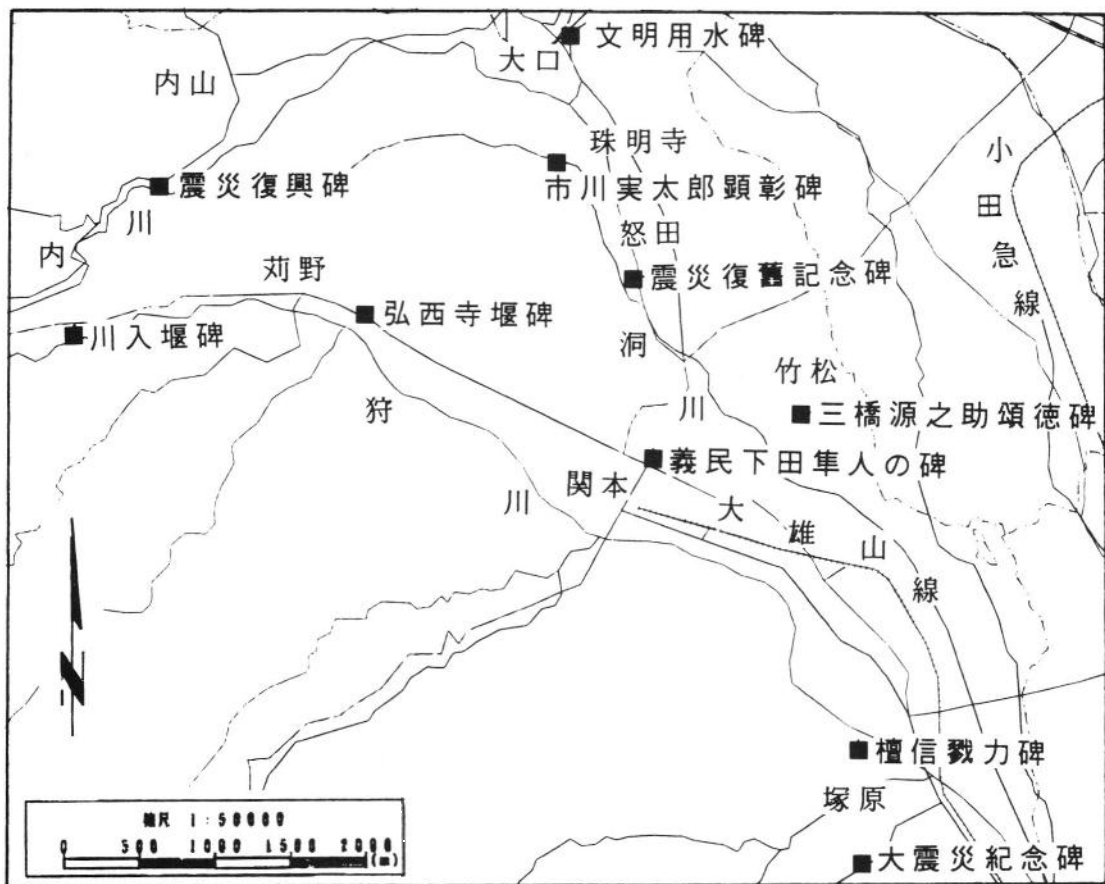


図1 南足柄市内の地震の石碑の建立場所

### 弘西寺堰碑 (写真1) —南足柄市荻野—

金時山の麓から流れ出る狩川の左岸一帯に、なだらかな関本丘陵が広がっている。狩川の上流に取水堰を設け、この丘陵の西側に川の水を導いて水田耕作を可能にしたのが弘西寺堰である。

## 弘西寺堰碑

神奈川県知事從四位勲三等 池田 宏題額

南足柄村灌漑水渠十數條アリ弘西寺堰ヲ最ト為ス往昔ノ開鑿ニ係ル安政ノ大震ニ遭ヒ遂ニ全ク絶ツ大久保候供資之ヲ修ス爾來七十餘星霜大正十二年九月一日午前十一時五十八分突如激震起リ天地晦暝天柱折レ地維碎ク乃チ堰路梗塞一水ヲ通セス是ニ於テ有志奔走議ヲ練リ計ヲ立テ耕地整理組合ヲ設ケ同年冬官ニ陳シ翌年二月設立並ニ起債許可ヲ得即チ起工ス工ニ從フ者献身努力同十五年八月無事竣功ス此業墜道六所二百七十間暗渠五個百二間無接合管二十七間明渠千七十二間水槽二個是ニ伴ウ道路橋梁畦畔ノ改修並ニ支線延長千間敷地區面積二十五町八段歩其費八萬餘金組合戸數六十有六設計ノ精緻斬新以テ現在ニ誇ルニ足ル是レ願フニ官廨輔導ノ宣シキト當事者和衷協同ノ堅キトニ因ルノミ後昆此意ヲ體シ其業ヲ繼カハ或ハ永ク擊壤ノ樂ヲ兩享クルヲ得ンカ頃者衆議シテ以テ將來ニ告ケント欲シ來リテ文ヲ予ニ請フ余郷土ヲ共ニシ等シク滲苦ヲ嘗メ其狀ヲ審ニス則チ辭セス敢テ之ヲ敘スト爾云

足柄上郡教育會長

足柄上郡聯合青年團長 正七位 關野光之助撰

猪瀬博愛 書

昭和戊辰二年

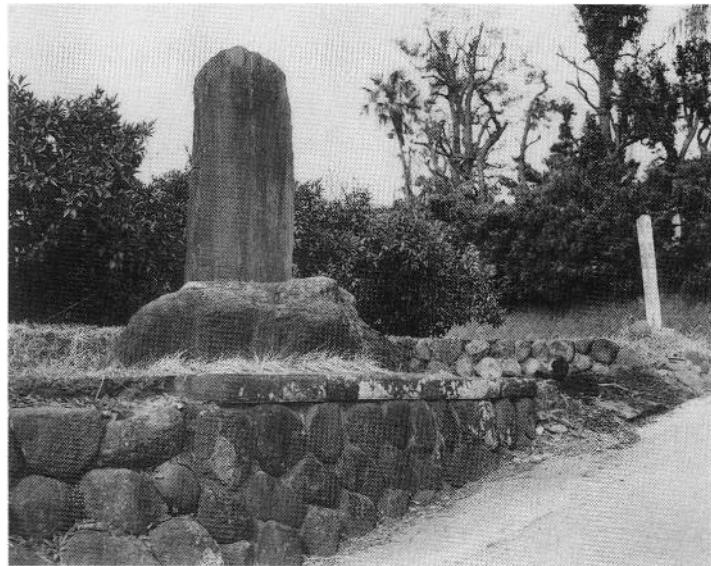


写真1 弘西寺堰碑

この記念碑は、大正の関東大地震で被害を被った堰の復旧の記録である。前回の「川入堰碑」と同様に、この弘西寺堰も安政の地震で堰が壊れたと記されている。「川入堰」の安政の地震による堰の被害の記述は誤りで、むしろ嘉永の地震による被害ではなかったかと、今回は調査もせずに指摘した。

はからずも、同じ川筋の二つの堰で、安政の地震による被害のことが記されていることが分かったので、ここでは再び性急な断定はしないほうがよさそうに思われる。今後は被害の裏付けとなる資料の収集に心がけて、この事の決着を付けたいと思っている。

### 震災復舊記念碑

神奈川県知事從四位勲三等 池田 宏顕額

時維大正十二年九月一日午前十一時五十八分異様ノ鳴動ト共ニ大震災突發シテ関東地方ノ悲惨名状スベカラス特ニ當地方ノ被害激甚ヲ極メ家屋ノ倒潰十八戸死者一名ヲ出シ山岳ノ崩壊耕地ノ亀裂破損水路ノ潰滅交通ノ壯絶等殆ド舊態ヲ存セス住民ハ居所ヲ失ヒ飢渴ニ迫リ其慘状言語ニ絶ス部落民ハ之レガ前後ノ処置ニ對シ協心同力献身ノ勇ヲ鼓シ努力スルモ救急奔走ノ際容易ニ之レガ復興ノ方法ヲ講ズル能ハザリキ是ニ於テ耕地ノ所有者相謀リテ震災復舊耕地整理組合ヲ組織シ其筋ニ認可ヲ申請シタルニ大正十四年九月認可ヲ得組合員六十七名整理ノ区域ハ字八幡平水神洞西洞蛇ヶ尾中尾暮坪他其頗ル擴汎ニ亘リ耕地面積二十二町一段歩余ニシテ本縣農林技師佐藤吉太郎氏及農林技手福島正広同出繩三好ノ兩氏ニ設計并ニ工事ノ監督ヲ委嘱シ同年十一月着工爾來晴雨ヲ論ゼズ毎日數十人ヲ督シ翌年三月無事完成ヲ見タリ工事ノ主要ナルモノハ道路路堤塘水路溝畔橋梁護岸堰堤及畦畔地均等ノ復舊ニシテ就中十三箇所ノ堰堤十八箇所ノ橋梁ハ頗ル完全ナルモノニシテ用水交通上多人ノ至便ヲ與フルヲ得タリ而シテ第二期工事トシテ字原及筆付ノ急坂改修ヲ計画シ昭和二年二月着工四月完成ス由來右ニ箇所ハ各部落最重要ナル道路ナルニモ拘ラズ急坂頗ル險惡ニシテ住民ノ困苦多年ナリシガ改修ノ結果新面目ヲ施シ其利スル処ヤ多大ナルモノタルベシ工費ハ第一期六万二千圓余第二期一万一千圓余合計七万三千圓余ニシテ県ノ補助金一万六千五百三十二圓低利資金ノ供給七千圓其殘額ハ開墾助成法ノ適用ニヨル交付金四千三百圓ト各自ノ據出トヲ以テ本事業ヲ完結ス要スルニ該事業ノ結果交通上農耕上物資ノ搬出搬入上ニ一新紀元ヲ割シタルハ實ニ組合役員ノ努力組合員及住民ノ犠牲的援助工事請負諸氏ノ精勵ト相俟ツテ官ノ指導監督其宜シキヲ得タル賜ト謂フベシ爰ニ斯碑ヲ建テ震災及工事ノ實績ヲ永遠ニ記念ス

昭和二年四月十五日

從四位勲四等 農學士 山崎延吉 撰文

勲八等 玉寶山 衲蓮田優 鏤書

**震災復舊記念碑（写真2）－南足柄市上怒田－**

関本にもどり、今度は左手に藤原範茂卿の墓のある切り通しをぬけ、県立足柄高等学校をすぎて、旧道を山北方面に進んでいく。蜜柑の協同選果場を過ぎた道の左手に建っているのが、この震災復舊記念碑である。かつて周囲を囲んでいた柵も壊れて、今はなくなっている。



**写真2 震災復舊記念碑**

関東大地震で大きな被害を被ったところでも、その後の復旧への努力によって地域振興がはかられた事例は多い。この記念碑には、関東大地震で被ったこの地域の被害の状況から復旧工事の完結までの事が詳しく記録され、工事のおかげで交通などの利便性が向上したことが記されている。しかし、この記念碑の存在も、この地域の人々の記憶から次第に失われようとしているのであろう。

裏面には当時の池田 宏県知事をはじめ、この工事に関わった神奈川県庁の職員名と怒田耕地整理組合の関係者名が記されている。怒田耕地整理組合長は市川実太郎氏である。市川実太郎氏の顕彰碑は慶伝寺参道前にも建っている。

この記念碑を後にして、800m程山北方面に行くと臨済宗珠明寺がある。この墓地に「大正十二癸亥九月一日 大地震之節箱根底倉活埋設至今遺形不顕矣」と刻まれた墓石がある。

珠明寺からさらに北に800m程の所が大口で、足柄山地の溪谷を流れてきた酒匂川は、ここから足柄平野を潤す流れに変わる。ここに酒匂川の水害の歴史と深く関わる福沢神社があり、正面の鳥居の右側に大きな文明用水碑が建っている。この記念碑は関東大地震後の足柄平野全体の農業用水路の改修とも関わっているので、後でそれらと併せて紹介することにした。

**市川実太郎顕彰碑**（写真3）－南足柄市上怒田－

珠明寺の手前を左に折れて、およそ400m程で暮坪地区の臨濟宗慶伝寺参道の登り口に着く。この参道の左手に総高4mにも及ぶ大きな石碑が建っている。この地域の発展に尽くされた市川実太郎翁を顕彰したものであるが、碑文に怒田耕地組合長として関東大地震の被害の復旧につくされたことが次のように記されている。

「……………(略) 帰郷された翁は同年怒田耕地整理組合長に就任震災後の耕地並びに道路水道の復旧整備を完了営農上の面目を一新し昭和三年福沢村農会長となり献身的に努力されたので会務は刷新されその成績は著しく向上した(略)……………」

なお、この顕彰碑は翁没後の昭和三十六年に建てられた。題字撰文は鎌倉円覚寺の朝比奈宗源禅師である。



**写真3**  
**市川実太郎顕彰碑**

**三橋源之助頌徳碑**（写真4）－南足柄市竹松－

足柄平野が生んだわが国を代表する人物として、誰もがためらうことなく二宮金次郎のちの尊徳（1787～1856年）をあげるに違いない。酒匂川の氾濫による災害が、偉大な人物を育んだのである。

竹松の三橋源之助も、災害が育んだ人物と言えるだろう。関東大地震で被害を受けて打ち拉がれた村民を勇気づけ、組合を設立して復旧に尽くしたのである。

## 頌徳

三橋源之助氏ハ明治十八年四月四日綱五郎三男トシテ福沢村竹松二生レ開成小学校卒業後ハ農業ニ従事スルノ傍ラ大松寺ニ於テ山口法山及ビ貞孝両氏ニ就キ漢学英語ヲ修ム氏早クヨリ盡忠報國ノ志アリ同三十八年海軍々人ヲ志願シ佐世保海兵団ニ入団ス其ノ成績抜群ニシテ大正十年兵曹長ニ累進シ勲六等瑞宝章ヲ授ケラル次イデ同十二年抜擢セラレ兵学校ニ人学スベキ内命ヲ受ケシニ偶々同年九月一日関東大震災ニ遭ヒ郷土ノ惨状ヲ目撃スルヤ慨然トシテ之ガ復興ヲ決意スルト共ニ榮譽アル入学ヲ断念シ帰郷スルニ及ビ専ラ之ガ復興復旧ヲ図リ産業組合設立ヲ急務トシ之ヲ村民ニ諮リ同志ヲ糾合シ同十三年有限責任福沢村信用販賣購買利用組合ノ設立ヲ見タリ推サレテ組合長ニ就任ス爾來確固タル信念ヲ以テ農村ノ更生ハ産業組合ノ充分ナル機能ニ俟タザルベカラズトシ機会アル毎ニ組合精神ヲ説キテ息マズ殆ンド寢食ヲ忘レ身命ヲ賭シテ其ノ伸展ヲ期セシカバ幾何モナクシテ其ノ基礎ヲ固メ組合ノ順調ナル発展ヲ見本村ノ復興ト經濟ノ更生トニ裨益シタル功績偉大ナリ惜イ哉病魔ノ襲フ処トナリ遠大ナル抱負ト絶大ナル経倫ヲ有シ乍ラ昭和六年六月二十八日四十七才ヲ一期トシテ長逝セラル惟フニ氏ノ如キ人格高潔志操堅固ニシテ而モ愛郷ノ念ニ燃ヘタルノ士ハ稀ニ見ル所テンテ郷土ノ誇リトナスベシ茲ニ其ノ美德ヲ慕ヒ永ヘニ之ヲ顕彰ス

昭和八年十月

保證責任 福沢村信用販賣購買利用組合

従四位勲四等 草柳正治

県属 福田 晃書

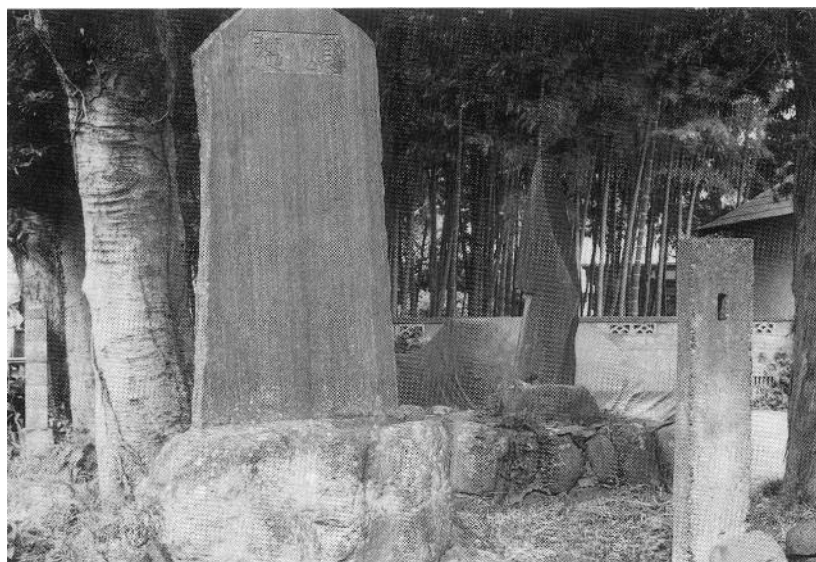


写真4 三橋源之助頌徳碑

三橋源之助が設立した福沢村信用販売購売利用組合は、その後足柄農業協同組合に引き継がれ、現在に至っている。

この三橋源之助頌徳碑は、関本の龍福寺交差点から大井松田インターチェンジ方面に約1200mの所にある曹洞宗大松寺の門前に建っている。

#### 檀信戮力碑（写真5）—南足柄市塚原—

戮力は「りくりょく」と読み「力をあわせる、協力する」という意味である。この碑はお寺の檀徒が、関東大地震で潰れた寺院の再建を果たしたことを記念して建てられた。碑は総高180cm程で、曹洞宗天王院山門脇に建っている。この寺は、狩川に架かる駒千代橋の約500m上流の右岸にある。

#### 檀信戮力碑

（裏面）

曩ク大正十二年九月一日午前十一時五十八分突如トシテ起リシ所謂関東大地震ニ依リ当院ノ罹リタル災害ハ全伽藍中一物タモ存セサルヲ以テ何如ニ其惨状ノ甚大ナリシカヲ想起スルニ足ル是地勢上止ムヲ得サルニ屬ス然シテ是レニ対シ檀信徒諸彦ヨリ寄與セラレシ深厚ナル同情ト喜捨セラレシ巨額ナル浄財トハ唯感激ノ外言辭ノ以テ顯ス可キ何物ヲモ有セサルナリ時恰モ肇国紀元二千六百年ナル最モ意義深キ佳節ヲ迎フルニ膺リ豫想以上ノ復興ヲ大成シ得タルハ一ニ是諸彦各位ノ淳真ナル戮力ノ結昌ニ他ナラス而シテ今茲ニ勅スル所ハ但事業ノ大綱数項目ノミニ止マル然シテ尚各人箇々ニ亘レル事蹟ハ当院須要ノ寺誌ニ載録シ永遠ニ至寶トシテ傳ヘンド期ス嗚呼許様広大ナル戮力ノ功德ハ各位力始祖先考ノ冥福ヲ資助シテ餘リアリ更ニ復各位力家門ノ繁栄ト桂子蘭孫ノ隆昌トヲ祈念シテ息々ス至禱至禱



写真5 檀信戮力碑

裏面に石碑が建てられた由来が彫られているが、関東大地震によるこの辺りの被害の大きさが想像できる。記念碑は全ての再建工事が終了した昭和15年に建てられている。当時は、この年を紀元二千六百年とよび、各地でさまざまな記念行事が行われたという。

#### 大震災記念碑（写真6）－南足柄市塚原－

この碑はこれまで紹介してきた他の記念碑と大分性格が異なっている。石碑の総高は約120cm程度で、中央に大きく大震災記念と刻まれ、その上部に「大正十二年九月一日午前十一時五十八分」と記されている。その他には碑面の左側に小さく「臺河原中」とあるだけである。

どんな理由によって、この記念碑が建てられたのか碑には記されていない。この碑はこれだけが独立してあるわけではなく、左側に一列に並んでさらに四つの碑が建っている。左隣が「大山祇神」で左に順に「愛宕大神」「堅牢地神」「馬頭観音」と並んでいる。「大山祇神」や「堅牢地神」、「馬頭観音」などは県西部の各地の路傍で見ることができ、農耕と深く関わる土や降水、馬匹を祀ったものである。そのために、大震災記念碑の建てられた場所からみて、地震そのものへの恐れからこの碑が建てられたのではないかと思えるのである。いまでは石碑の表面にひどく苔類がはびこって、彫られた字もはっきり見えないようになっている。

この記念碑は、大雄山線塚原駅から南足柄市消防署岡本分署の方向にたどって、岩原城跡まで歩くと、道路を挟んだ対面に建っている。

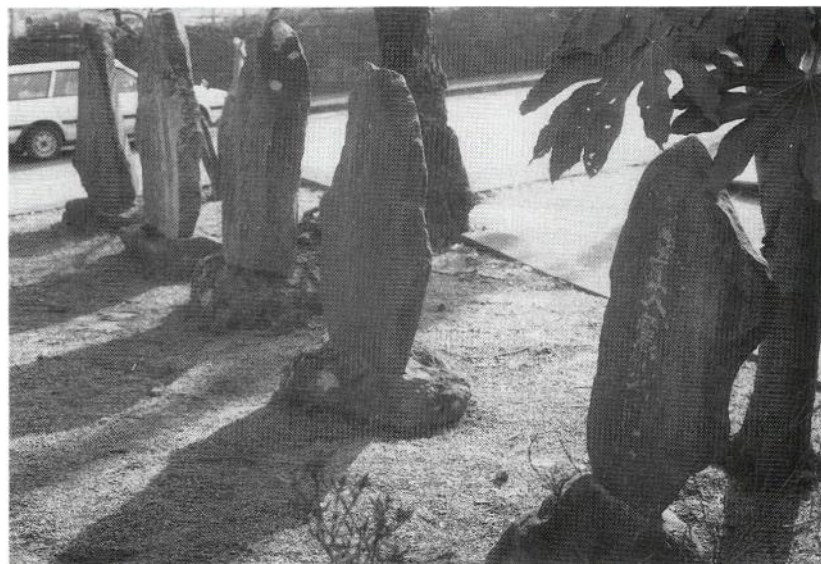


写真6 大震災記念碑